

## 糸魚川市・朝日町議会議員連絡協議会



平成20年1月16日(水)午後3時～  
富山県下新川郡朝日町  
朝日町役場 4階大ホール  
あさひ総合病院

新潟県の西の玄関口・糸魚川市と、富山県の東の玄関口・朝日町は県境にその境も接し、青海町時代から消防相互応援協定を結び、現在も交流を深めています。青海町時代は常任委員長以上での議員交流でしたが、現在は全議員で交流しています。

昨年は、朝日町から糸魚川市へお出で頂きましたので、今回は議員25人(欠席4名)事務局3名で朝日町を訪問し、「あさひ総合病院」と両市町の消防体制について研修してきました。

昭和60年に発生し10名の犠牲者を出した旧青海町の玉の木地すべり災害では、朝日町からも消防が出勤し大変にお世話になりました。病院も、あさひ総合病院には外来で1日平均24人、入院患者は延べ2,483人/月の糸魚川市民がお世話になっているそうです。

そのように、医療、救急、消防で密接な関係にある両市町が議会同志の交流を深め、あらゆる分野での連携を高めていくことの意義は大きいと思います。

合併により新糸魚川市になって

消防相互応援協定 平成17年 7月 1日 富山県下新川郡朝日町と

研修医制度が始まって以来の医師不足は朝日町でも大きな問題となっていて、医師確保の難しさは糸魚川市と同様ようです。富山大学医学部の卒業生の7割は東京へ行ってしまい、富山県内の病院も富山大学からの医師派遣を受けることが困難なようです。

あさひ総合病院は、昭和20年に日本医療団泊地方病院として開設され、その後、富山県立病院、朝日町立病院と変遷し、平成17年11月に現在の新病院が開院されています。

---

あさひ総合病院には私も家族も大変お世話になってきました。私は、大学四年生の時に椎間板ヘルニアを患って一ヶ月半、当時の泊病院に入院しました。現在は完治しています。

長男と三男は生まれつき目が弱く、視力矯正訓練のために週に3回ずつあさひ総合病院に通いました。小学校入学までが視力回復の勝負だということで、家内が懸命の努力をしました。幼稚園入園前から小学校低学年までの数年にわたり片道50分を掛けて通い続けることの大変さは、思い出しても良くやってくれたものだと思いますし、母親の力の凄さを感じます。

その長男もこの春大学院を卒業して大手電機メーカーに就職予定、三男は高校二年生になります。

うちの5人の子ども達は全員富山県入善町の「あわの産婦人科」で誕生しました。次男は生後2日で先天的な腸の異常が見つかり、富山市立病院に救急車で運ばれて手術を受けました。術後凄まじい声で何日も泣き続けるわが子を見て、切ないやら、その元気を頼もしく思うやらであったのを、つい先日のことのように思い出します。その次男は昨春北海道の教育系大学に進学し教員を目指しています。

朝日町にはあさひ総合病院の他にも大きな病院が二つあります。人口1万5千人弱の朝日町の医療体制と、人口5万人弱の糸魚川市の医療体制を比較すると、永年の積み重ねの違いを感じます。